

# 令和6年度 名古屋市立本城中学校 学校努力点

## 『ナゴヤ学びのコンパス』(学びの方針)

### 実現したい市民の姿

自由な市民として互いに認め合い、共に社会を創造する

### 目指したい子どもの姿

ゆるやかな協働性の中で

自律して学び続ける

分からないことがあれば、「分からないから教えて」「ここどうやるの?」と安心感をもって聞くことができる。困っている子がいたら、「どうしたの?」「こうするといいよ」と寄り添う。自力で解決したい子がいたら、その選択を尊重し、そっと見守る。

- 興味・関心等に応じ、やりたいことを見付けて取り組む
- 学ぶペースや方法、内容などを自己選択、自己決定しながら学ぶ
- 学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける

### ○ 重視したい学びの姿

・ 自分に合ったペースや方法で学ぶ ・ 多様な人と学び合う ・ 夢中で探求する

### ○ どの学校園でも大人が大切にしたいこと

子どもは有能な学び手であると理解し、子どもの学びに伴走する

・ 子ども一人一人の思いや願いを尊重する ・ 子どもと対話する

・ 子どもの自分なりのチャレンジを大事にする

⇒ 個別最適な学び、協働的な学びを実現

## 1 本校の努力点目標

「**仲間とともに、主体的に歩む**」

～ 自己選択、自己決定、自律する生徒・寄り添う職員集団 ～

## 2 本校の実態

昨年度の学校自己評価アンケートの結果では、「学校生活」について、74%の生徒が満足、約22%がほぼ満足と答えている。

しかし、「学習面」の「個別対応した授業、対話を通して協力する授業」については47%が満足、40%がほぼ満足と答えており、その他の質問と比べると成果が上がっていない。まずは授業内で、仲間と関わりながら行う対話的な学びの機会を増やしていきたい。

「生活面」では、昨年度より校内外において問題行動が増え、指導が困難な状況も発生している。一方的な指導は限界であり、行動について粘り強く生徒自身に考えさせる指導が必要である。これまでも、学校内の規則・規定の見直しは生徒に考えさせながら行ってきた。

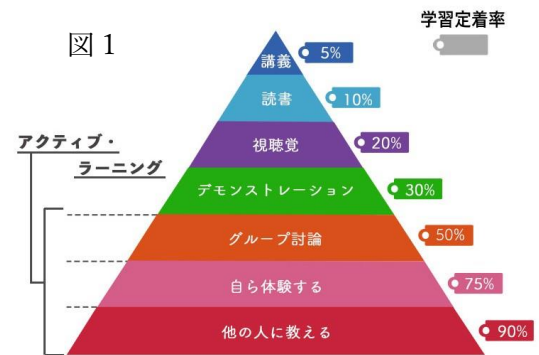
「特活(学校行事)」の「学校行事」については78%が満足、18%がほぼ満足と答えているものの、関連する「協力的、積極的に参加」「学校生活に積極的に関わり、役割を果たせている」の問いはポイントが低くなっていく。昨年度までの体育大会や音楽会は、従来通りの内容であったが、特に音楽会は準備期間から実施まで指導が難しい場面があった。本年度は体育祭、文化祭と呼称を改め、生徒が主体的に行う学校行事へと進化させていきたい。

### 3 本年度の取組

#### (1) 「学習面」・・・対話的な学びの機会の増加・充実

生徒を自律して学び続けるようにさせるためには、教科学習においては、“管理教育”“画一的な一斉授業”から脱却をしなければならぬ。ナゴヤ学びのコンパスが重視する生徒の多様な人と学び合う、夢中で探求する姿を引き出したい。そこで、本校では対話的な学びの機会の増加と充実に取り組む。

特に、ラーニングピラミッド（出典：アメリカ国立訓練研究所 図1）に基づき、自分の力で仲間に教える・説明する対話の機会を設定する。ただ、対話や話し合いをすればよいというわけではないが、まずは回数の増加を目指す。



#### (2) 「生活面」・・・粘り強く生徒自身に考えさせる指導の実践

2022年に改訂された生徒指導提要には、生徒指導の定義として「社会の中で自分らしく生きることが出来る存在へと生徒が、自発的主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」とある。また、生徒指導・実践上の視点の1つとして自己指導力を高めるためには「自ら考え、選択し、決定する、そのような体験が何より重要である（中略）」とある。

そこで、努力点の副題にあるように生徒の“自己選択”、“自己決定”を重視し、自分の行動に責任の持てる“自律する生徒”を目指し、“寄り添う職員集団”として粘り強く生徒自身に考えさせる指導を実践していく。

しかし、機械的に自己決定の場を提供しても、多くの生徒は戸惑うだけである。生徒に安心感、信頼感が与えられるよう、ナゴヤ学びのコンパスにもある職員の子ども一人一人の思いや願いを尊重し、対話しようとする姿勢を大切にする。

#### (3) 「特活（学校行事）」・・・生徒が主体的に行う学校行事へ

これまでの本城中学校行事は“体育大会があるから、学級全員、一致団結して頑張ろう！”“音楽会があるから、学級全員で気持ちを一つにして、良い合唱を歌おう！”であった。もちろん、集団で一つの決められた目標に向かうこと自体も大切であり、得意な生徒も不得意な生徒も同じことに取り組み、互いを認め合っていくことにも教育効果があった。

しかし、行事への取組の実際は、体育や音楽の授業内での練習が主であった。本来の目的から遠ざかり、音楽会に向けては指導が困難な状況も発生し、学校行事が画一的になっているといわざるを得ない。

生徒が興味・関心等に応じ、やりたいことを見付けて取り組むこと、方法・内容などを自己選択、自己決定することが重要とされている今、画一的な学校行事から脱却し、体育大会・音楽会を体育祭・文化祭と呼称を改め、生徒が主体的に行う学校行事へと進化させていきたい。

### 4 今後の進め方

- ・ 努力点の内容を踏まえて、全職員協力体制のもとで進める。
- ・ 進捗状況の確認は校務支援システムを活用する。
- ・ 学習面の実践は、同教科内で対話的な学びの機会を取り入れた授業を互いに見学したり、工夫・充実が見られる授業者においては教科を超えて見学をしたりし、研鑽する。
- ・ 年度末に現職教育の中で、全体の分析・検討会を行う。指導や支援の方法を研究する。